

ネットだけではつながりにくい



編集委員 片山一弘

今はスマートフォンで、いつでもどこでも好みの音楽や映像に接することが可能だ。SNSでは友人知人に加え、インターネット上で知り合った人々と交流することもできる。常に好きなものに囲まれる快適な生活の実現、とも言える。

筆者も最近、ネットで聴き放題の音楽配信サービスを利用するようになった。いま人気の曲を聴いてみようと思いつつも、つい昭和のシティポップに熱中していたら、配信元から当時の音楽ばかり薦められるようになった。①よほど意識しないと、自分の好みから離れるのは難しい。ネット上のサービスは概して、おせっかいだ。本や音楽

を購入すれば、その傾向を分析して「これがあなたの好み」と他の商品を薦めてくる。SNSでも「この人は友達ではないですか？」などと次々と人を紹介してくる。検索した単語も分析され、その傾向は検索結果に反映するらしい。

かくして、好きなものの情報、自分に似た意見はどんどん集まってくる反面、そうでもないものに触れる機会は相対的に減り、存在が見えにくくなっていく。

人々の間に、意見の相違があるのは当然だ。だが、それ以前に、意見の根拠となる事実や知識が共有されず、互いに別の世界を見ているようでは、議論すら成り立たない。

そんな状況になりつつあるのではないかと、様々な争いを見ていて感じることもある。

◇ 「ほしいものが、ほしいわ。」

広告が時代の空気を示す最先端のメディアとして注目されてきた1980年代に、糸井重里さんがコピーライターとして西武百貨店の広告に書いた言葉だ。

このコピーになぞらえていえば、インターネット産業は、人々の「しりたいものが、しりたいわ。」という要望に応じる方向に進んできた。

それはそれでよいのだけれど、ネットがここまで巨大化し、人々にとっての情報インフラそのものに近づいてしまったからには、②知りた

興味がないけれど世の中では一定の存在感がある分野の情報に出合うこと自体は、さほど難しくはない。

例えば、大きめの書店を訪ねて棚を眺めれば、知らない分野でも、今こういうテーマが注目されているかは推測できる。筆者は、知識の乏しい分野について知りたい時に

は、まず（ア）や（イ）で調べ始める。

例えば日本にインターネットが紹介された頃には、よく「世界の人々とながらる手段」と宣伝されていた。それは正しかったけれども、同時に、近くの人々とながらにくくなる副作用も生じるとは、誰も想像していなかったことだろう。

1 (ア)と(イ)に入れるのに適当な言葉を下からふたつ選び、○を付けましょう。

() インターネット () 書店 () SNS
() 図書館 () スマートフォン

2 傍線部①「よほど意識しないと、自分の好みから離れるのは難しい」のは、なぜでしょうか。記事中の言葉を使って、25字以上30字以内で説明しましょう。

25

3 傍線部②「知りたいわけじゃなくても、知っておいた方がよいもの」と同じ意味で使われている言葉を記事から抜き出しましょう。